

4-5 兵庫行動枠組の具体化進捗状況の評価手法

これまでのアジア防災会議等の結果、兵庫行動枠組の防災戦略の達成障害に係る課題を確認したところ、いくつかの共通の障害があることがわかりました。主な事項を列挙すると以下の通りとなります。

- 新たなコンセプトとして防災の観点が、法制度、政策に盛り込まれていない。
- 防災の観点をどのように開発に盛り込み、浸透させるかが明確でない。
- 津波、地震からの人的、物的な損害をより一層減じるには如何にすべきか明確でない。
- 公、私の分野を含んだ耐震補強を如何に展開すべきか明確でない。
- コミュニティー、PTA、企業等、防災活動への参加者を如何に増やすか明確ではない。
- 外部からの防災に関する支援を受ける場合、限界が存在する。
- 防災活動を支援するグループやセクター（金融機関、政治家等を含む）を如何に活動させるか明確になっていない。
- 予報技術をより一層、精緻なものとする必要がある。
- 伝統的な防災の知識を用いる必要がある。
- 災害情報、被害情報を精度良く、タイムリーに適切に提供することが必要。

以上の課題に対して、ISDR および ADPC と協調し、メンバー国を含む 33 カ国を対象に 2005 年当時の各国の防災レベルと 2006 年現在の防災レベルを HFA の優先 5 項目に照らして評価する手法について検討を加えました。

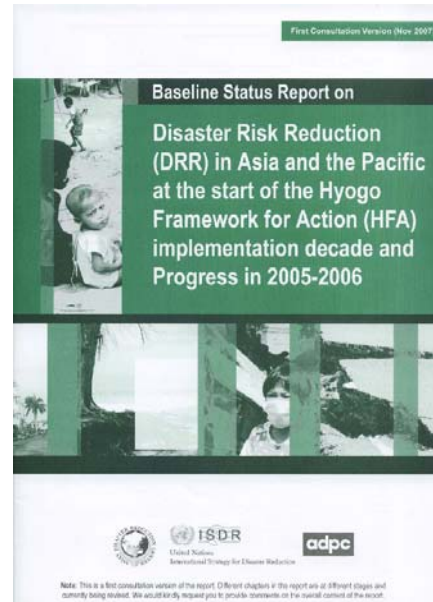
具体的には、

- 5 項目の優先事項に照らした評価
- 5 項目の大項目を評価するためのベンチマークである 18 項目に照らした評価
 (“Guide Note on Indicators for Assessing Progress on DRR, UNISDR, Draft, Jan 19,2007)
- 既存データの活用。具体的には以下のデータを用いる。
 - ・ Hazard and disaster information sources, such as: EMDAT, the World Bank’s Hotspots report and report from ADRC
 - ・ National Reports to WCDR in Jan. 2005
 - ・ National HFA Progress reports to the First session of Global Platform Meeting in June 2007
 - ・ Reports of Regional Institutions
 - ・ Additional Reports and Information sought from countries that did

not publish reports form global conference

- Other published and available regional and in-country reports

上記手法に基づき 2007 年 11 月に first consultation 版として “DRR in Asia and the Pacific at the start of the HFA implementation decade and progress in 2005-2006” を作成しました。



また、本件を進める上で、UN/ISDR と ADPC との共同プロジェクトとし、5月にUN/ISDR バンコク事務所において、8月3～4日に神戸において運営委員会を開催しました。

なお、プロジェクトの中間報告につきましては、6月5-7日のジュネーブでの Global Platform、6月25～27日のアスタナでのアジア防災会議、さらには11月7～8日にデリーで開催の第二回アジア防災閣僚会議において実施いたしました。